

2020年6月7日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「信仰と愛と希望と」

聖書：テサロニケの信徒への手紙—1:1～10

この手紙の時代背景には、「信教の自由」が脅かされていた「皇帝崇拜」があった。それは使徒言行録 17 章にパウロらのテサロニケでの状況を見ることができる。テサロニケ教会は町の当局から「皇帝崇拜違反」の疑いをかけられていた。使徒言行録「彼らは皇帝の勅令に背いて、「イエスという別の王がいる」と言っている」(17:1～9)。パウロはテサロニケの信徒たちにかくまわれ、夜のうちに命ながら脱出した。テサロニケに残った信徒たちはパウロを逃がしたあとも迫害に耐え、信仰の真を貫きながら歩み続けたのである。

パウロはそういうテサロニケの信徒たちに手紙を書き送った。「わたしたちは、祈りの度に、あなたがたのことを思い起こして、あなたがた一同のことをいつも神に感謝しています。あなたがたが信仰によって働き、愛のために労苦し、また、わたしたちの主イエス・キリストに対する、希望を持って忍耐していることを、わたしたちは絶えず父である神の御前で心に留めているのです」(テサロニケ 1:2-3)。ここにパウロの特徴「信仰、愛、希望」という三つの言葉が出ている。この言葉の中にあの過酷な迫害に耐え忍ぶ鍵が隠されているように思う。テサロニケ 5 章においては、「胸当てを身に付け、兜をかぶれ。鎧と鉄兜を身に着けよ」とある。「信仰と愛と希望と」を持ち持ち合わせて、それを鎧としなさい、兜としなさいと教えている。権力者が支配する世のただ中で生きていくことの術を教えている。

実は、私たちのバプテストの誕生の歴史もまた「信仰と愛と希望と」を持ち出して、「信教の自由」のためにたたかった。バプテストの誕生は、今から 409 年前の英国。トーマス・ヘルウィス率いる約 10 名の信徒によって 1611 年の暮れか、12 年の初めに教会組織した。この時代に英国で新たなキリスト教会を生み出すことは、それは同時に国王に対する抗議でもあった。ここにヘルウィスが国王に提出した嘆願書がある。

「王よ、聞きたまえ。…王は、いつかは滅ぶべき人間であり、神ではない故に、同様に滅ぶべき運命にある臣民の魂に対して、それを縛る法や条例、並びに、魂の支配者をお立てになる権威はお持ちになりません。もし、王がそのような魂の支配者や法を定める権威があるとされるならば、王は永遠不滅の神であり、死すべき人間ではないということになります。王よ、従うべき神に背信をそそのかす声に誘惑されて、神に罪を犯し給うなかれ。…臣民に対しても罪を犯し給うなかれ。もしそうなさるならば、臣民の命を地上から取り去りたまえ。神よ、王を救いたまえ。」…その後、ヘルウィスは 1616 年頃に殉教した。42 歳の生涯。

私たちは、キリストに倣う者として「信仰と愛と希望と」を持ち合わせて歩み続けたい。  
(神谷)